

福島第一 建屋開口部における空气中放射性物質の核種分析結果 < 1/5 >

参考値

( データ集約 : 2/2 )

採取場所	プロセス主建屋開口部 (東側開口部)		焼却工作建屋開口部 (南東側開口部)		サイトバンカ建屋開口部 (サイトバンカ建屋大物搬入口)		炉規則告示濃度限度 (Bq/cm <sup>3</sup> ) (別表第2第四欄 放射線 業務従事者の呼吸する 空气中の濃度限度)
試料採取日時刻	平成24年1月25日 8時53分 ~ 9時53分		平成24年1月25日 8時53分 ~ 9時53分		平成24年1月25日 10時08分 ~ 11時08分		
検出核種 (半減期)	試料濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )	倍率 ( / )	試料濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )	倍率 ( / )	試料濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )	倍率 ( / )	
I-131 (約8日)	ND	-	ND	-	ND	-	
Cs-134 (約2年)	6.0E-05	0.03	1.7E-05	0.01	6.6E-05	0.03	2E-03
Cs-137 (約30年)	8.9E-05	0.03	2.3E-05	0.01	9.1E-05	0.03	3E-03

試料濃度は、揮発性と粒子状の合計値。

． E - とは、 ． × 1 0 <sup>-</sup> と同じ意味である。

その他の核種については評価中。

二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を 1 と比較する。

本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。

検出限界値は次の通り。

揮発性のI-131が約9E-6Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-134が約2E-5Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-137が約2E-5Bq/cm<sup>3</sup>。

粒子状のI-131が約3E-6Bq/cm<sup>3</sup>。

ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。

福島第一 建屋開口部における空气中放射性物質の核種分析結果 < 2/5 >

参考値

( データ集約 : 2/2 )

採取場所	雑固体廃棄物 減容処理建屋開口部 (北東側開口部)		プロセス主建屋開口部 (除染装置室内)		造粒固化体貯蔵排気設備 (排気出口側)		炉規則告示濃度限度 (Bq/cm <sup>3</sup> ) (別表第2第四欄 放射線 業務従事者の呼吸する 空气中の濃度限度)
試料採取日時刻	平成24年1月25日 10時14分～11時14分		平成24年1月25日 9時52分～10時52分		平成24年1月25日 10時57分～11時07分		
検出核種 (半減期)	試料濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )	倍率 ( / )	試料濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )	倍率 ( / )	試料濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )	倍率 ( / )	
I-131 (約8日)	ND	-	ND	-	ND	-	
Cs-134 (約2年)	1.0E-04	0.05	2.3E-04	0.12	ND	-	2E-03
Cs-137 (約30年)	1.4E-04	0.05	2.9E-04	0.10	ND	-	3E-03

試料濃度は、揮発性と粒子状の合計値。

1.0E-04 とは、1.0 × 10<sup>-4</sup> と同じ意味である。

その他の核種については評価中。

二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を 1 と比較する。

本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。

検出限界値は次の通り。

揮発性の I-131 が約 6E-6 Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-134 が約 9E-6 Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-137 が約 1E-5 Bq/cm<sup>3</sup>。

粒子状の I-131 が約 5E-6 Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-134 が約 5E-6 Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-137 が約 6E-6 Bq/cm<sup>3</sup>。

ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。

福島第一 建屋開口部における空气中放射性物質の核種分析結果 < 3/5 >

参考値

(データ集約 : 2/2)

採取場所	1号機廃棄物処理建屋 (西側開口部)		2号機廃棄物処理建屋 (西側開口部)		4号機廃棄物処理建屋 (北西側開口部)		炉規則告示濃度限度 (Bq/cm <sup>3</sup> ) (別表第2第四欄 放射線 業務従事者の呼吸する 空气中の濃度限度)
試料採取日時刻	平成24年1月26日 8時45分～9時45分		平成24年1月26日 8時48分～9時48分		平成24年1月26日 13時29分～14時29分		
検出核種 (半減期)	試料濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )	倍率 ( / )	試料濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )	倍率 ( / )	試料濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )	倍率 ( / )	
I-131 (約8日)	ND	-	ND	-	ND	-	
Cs-134 (約2年)	4.5E-05	0.02	1.1E-05	0.01	1.4E-05	0.01	2E-03
Cs-137 (約30年)	4.5E-05	0.02	1.5E-05	0.01	1.7E-05	0.01	3E-03

試料濃度は、揮発性と粒子状の合計値。

． E - とは、 ． × 1 0 <sup>-</sup> と同じ意味である。

その他の核種については評価中。

二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を 1 と比較する。

本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。

検出限界値は次の通り。

揮発性のI-131が約7E-6Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-134が約2E-5Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-137が約2E-5Bq/cm<sup>3</sup>。

粒子状のI-131が約3E-6Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-137が約1E-5Bq/cm<sup>3</sup>。

ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。

福島第一 建屋開口部における空气中放射性物質の核種分析結果 < 4/5 >

参考値

(データ集約 : 2/2)

採取場所	4号機原子炉建屋開口部 (原子炉建屋大物搬入口)		1号機タービン建屋開口部 (タービン建屋大物搬入口)		2号機タービン建屋開口部 (タービン建屋大物搬入口)		炉規則告示濃度限度 (Bq/cm <sup>3</sup> ) (別表第2第四欄 放射線 業務従事者の呼吸する 空气中の濃度限度)
試料採取日時刻	平成24年1月26日 13時23分 ~ 14時23分		平成24年1月27日 8時32分 ~ 9時32分		平成24年1月27日 8時32分 ~ 9時32分		
検出核種 (半減期)	試料濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )	倍率 ( / )	試料濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )	倍率 ( / )	試料濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )	倍率 ( / )	
I-131 (約8日)	ND	-	ND	-	ND	-	
Cs-134 (約2年)	ND	-	1.5E-05	0.01	ND	-	2E-03
Cs-137 (約30年)	ND	-	2.1E-05	0.01	ND	-	3E-03

試料濃度は、揮発性と粒子状の合計値。

NDとは、 $< 1.0 \times 10^{-3}$  と同じ意味である。

その他の核種については評価中。

二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を 1 と比較する。

本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。

検出限界値は次の通り。

揮発性のI-131が約 $6E-6$ Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-134が約 $2E-5$ Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-137が約 $2E-5$ Bq/cm<sup>3</sup>。

粒子状のI-131が約 $3E-6$ Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-134が約 $9E-6$ Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-137が約 $1E-5$ Bq/cm<sup>3</sup>。

ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。

福島第一 建屋開口部における空气中放射性物質の核種分析結果 < 5/5 >

参考値

(データ集約 : 2/2)

採取場所	3号機タービン建屋開口部 (タービン建屋大物搬入口)		4号機タービン建屋開口部 (タービン建屋大物搬入口)				炉規則告示濃度限度 (Bq/cm <sup>3</sup> ) (別表第2第四欄 放射線 業務従事者の呼吸する 空气中の濃度限度)
試料採取日時刻	平成24年1月27日 13時45分～14時45分		平成24年1月27日 13時45分～14時45分				
検出核種 (半減期)	試料濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )	倍率 ( / )	試料濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )	倍率 ( / )	試料濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )	倍率 ( / )	
I-131 (約8日)	ND	-	ND	-			
Cs-134 (約2年)	2.1E-05	0.01	1.4E-05	0.01			2E-03
Cs-137 (約30年)	2.9E-05	0.01	1.8E-05	0.01			3E-03

試料濃度は、揮発性と粒子状の合計値。

． E- とは、 ． × 1 0 ˆ と同じ意味である。

その他の核種については評価中。

二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を 1 と比較する。

本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。

検出限界値は次の通り。

揮発性のI-131が約5E-6Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-134が約1E-5Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-137が約2E-5Bq/cm<sup>3</sup>。

粒子状のI-131が約4E-6Bq/cm<sup>3</sup>。

ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。